

捕獲等事業評価シート

様式

(令和 7 年度 ニホンジカ)

(秋田県生活環境部自然保護課)

評価シート（ニホンジカ）

STEP 1 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

■ 事業概要

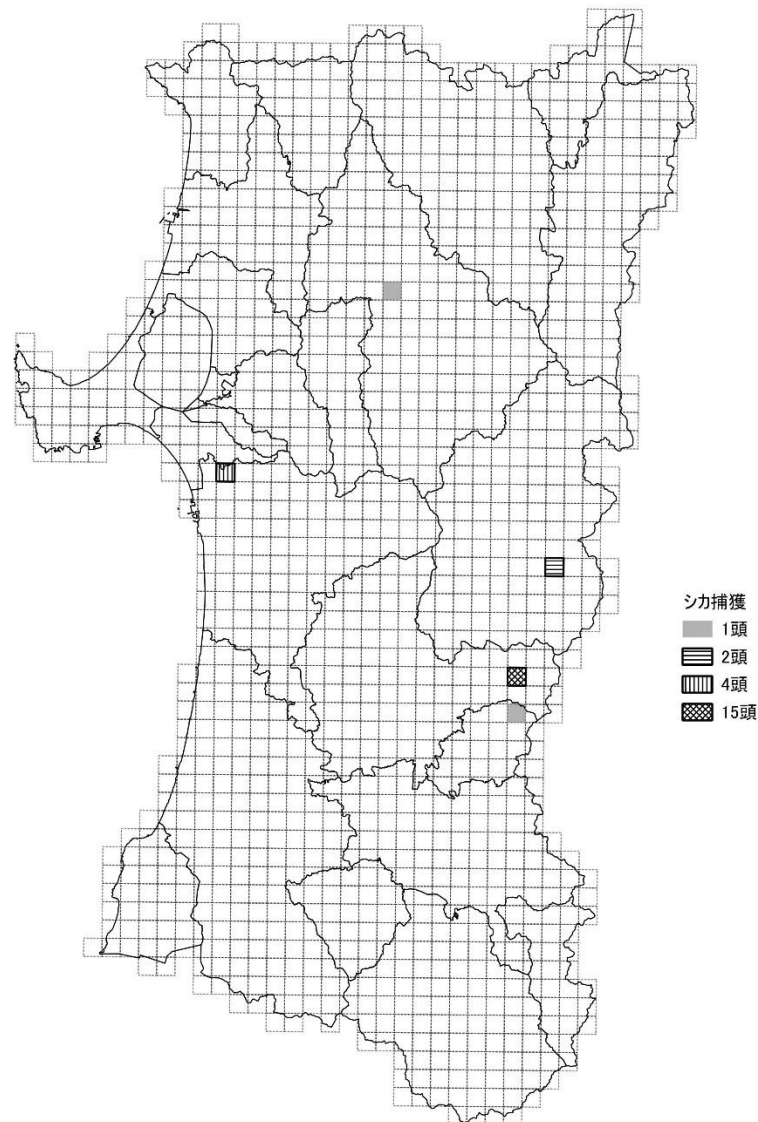
事業実施地域	秋田県全域（シカの越冬地）
事業主体	秋田県生活環境部自然保護課
事業実施期間	令和7年11月1日～令和8年2月28日
捕獲手法	銃猟、くくりわな
事業メニュー	②捕獲等メニュー
事業費	1,512,479 円（※）

（※）イノシシと按分した事業費を記載

■ 事業の評価

評価項目	当初予定	実績	評価
捕獲目標	合計 36 頭	銃猟：20 頭 くくりわな：3 頭	捕獲目標の達成率は 63.8%であった。冬季にシカが集団化する越冬地で捕獲を行ったが、全体的に低密度であることから目標頭数には達しなかった。
捕獲作業量	銃猟：18 班日	銃猟：30 班日 くくりわな：2,214 基日 （くくりわなはイノシシと共用）	計画以上の作業量を投入した結果となった。
効率的な捕獲	全県的に生息密度が低いことから、シカが冬季に集団化する越冬地における捕獲を実施。	9箇所では生息調査を実施し、越冬の痕跡が比較的多かった6地区で捕獲事業を実施。	現状ではシカが集団化する地域での捕獲が、効率が高いと考えられる。
事業に要した人員数	18 班日（54 人日）	30 班日（180 人日）	計画以上の班数（人員数）を投じて実施した。従事班日当たりの捕獲数は 0.76 頭であった。
安全管理体制	指定管理鳥獣捕獲等事業計画として提出	提出した計画に沿って作業を行った。人身事故やその他の事故は発生しなかった。	事故無く事業は遂行された。
捕獲個体の処分方法	指定管理鳥獣捕獲等事業計画に記載したとおり、全て自家消費として処理。	同左	計画通りに事業は遂行された。
環境への影響への配慮	現場で血抜きを行う場合は周囲の環境に配慮する。	同左	計画通りに事業は遂行された。
捕獲個体の属性	・オス 11 頭、メス 1 頭 ・成獣 11 頭、幼獣 1 頭 (R6)	・オス 15 頭、メス 8 頭 ・成獣 23 頭 (R7)	捕獲頭数は伸びている。

- 添付図面（地点（緯度経度）地図/5 kmメッシュ地図/1 kmメッシュ地図）
 - ・ 捕獲数とその位置を落とした図（必須）：捕獲地点地図（3kmメッシュ）



STEP 2 捕獲によって出没（密度）や被害が減少したかを検証する。

■ 事業実施地域

県内全域（越冬箇所）

■ 出没（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	・ 生息状況調査による痕跡数（越冬地） 1,131.63 箇所/km²（9 地区平均） うち、事業実施地区 1,585.00 箇所/km²（4 地区平均）
事業実施後もしくは事業終盤・後半	・ R8 年度の痕跡調査で確認 960.54 箇所/km²（7 地区平均） うち、R7 事業実施地区 1,280.54 箇所/km²（4 地区平均）

評価	一部実施地区が異なるものの、調査対象地平均では痕跡密度は低下し、事業実施地域においても痕跡密度が低下した地域が多く、捕獲による一定の効果があったものと評価できる。
----	---

■ 被害

評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	有害鳥獣被害状況調査により、農林業被害状況を把握しているが、捕獲事業の効果測定のための被害調査は行っていない。
事業実施後もしくは事業終盤・後半	同上
評価	低密度な状況もあり、捕獲事業の農林業被害軽減に関する評価は困難である。

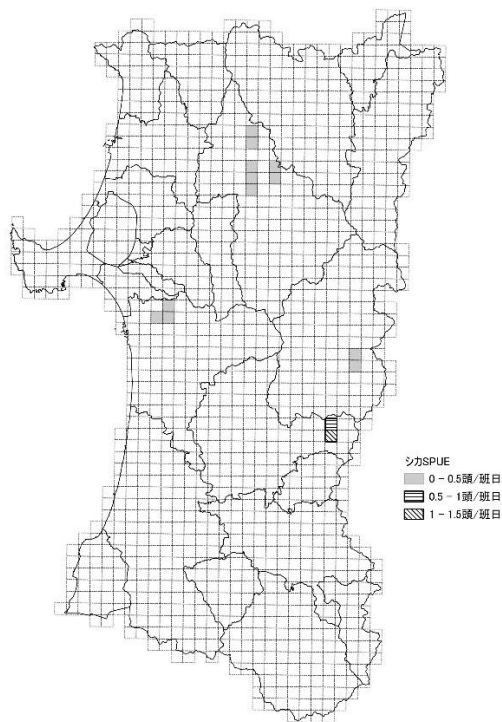
■ 添付図面

1 令和8年度生息調査結果（痕跡密度）

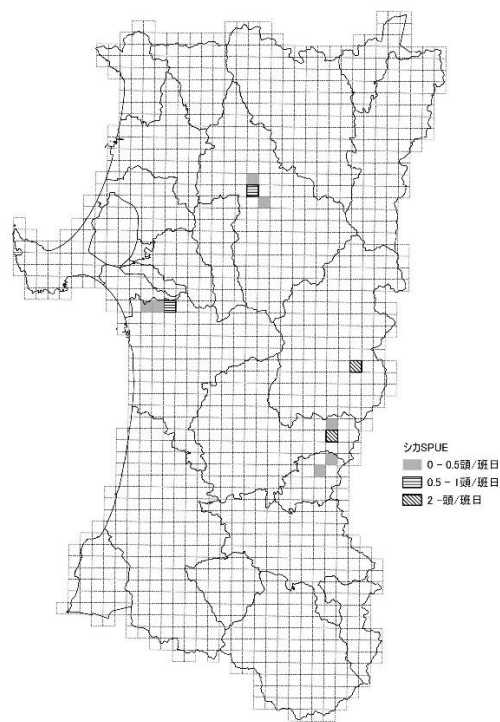
（単位：箇所/km²）

番号	地区名	R8	R7
1	大館市白沢	813.95	—
2	北秋田市浦田	1,300.24	2,127.66
3	秋田市上新城白山	1,701.32	1,795.84
4	仙北市生保内	997.51	1,496.26
5	大仙市中仙太田	1,124.74	920.25
6	美郷町黒沢	478.01	—
7	横手市山内黒沢	308.01	—
平均		960.54	1,585.00
R7事業実施箇所平均		1,280.95	1,585.00

2 本事業における目撃効率 SPUE の推移
（次ページ）



R6



R7

STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

■ 捕獲等事業に関する評価及び改善点 (STEP 1・2 の検証を踏まえて記載する。)

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標設定】	評価：冬季に集団化する越冬地において捕獲圧をかけるため、6地区で36頭の捕獲目標としたが、23頭の捕獲となった。未だ生息密度が低く、捕獲効率が低いことに加え、県北で豪雪となり出猟できない地区が生じたことが要因と考えられる。 改善点：越冬地においても生息頭数が絶対的に多くはないため、捕獲効率を向上させることが難しいが、低密度下においては集団化する越冬地での捕獲圧強化が効果的であると考えられるため、引き続き、越冬地での捕獲を実施していく。
【実施期間】	評価：有害鳥獣捕獲との棲み分けのほか、足跡を追跡しての捕獲には狩猟期間（積雪期）が適している。 改善点：特になし
【実施位置】	評価：捕獲効率を上げるため、集団化する越冬地で事業を実施しており妥当である。 改善点：特になし
【捕獲手法】	評価：足跡を追跡しての捕獲が主となるため、銃猟が適している。 改善点：特になし。
【捕獲コスト】	評価：委託事業としては、最小限の出猟努力量（3回）と捕獲個体に応じた処理経費としており、妥当である。

	改善点：特になし
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：県内で唯一の狩猟団体に委託して実施しており、妥当である。
	改善点：特になし。
【個体処分】	評価：捕獲個体は自家消費とし、解体残滓は地元自治体のルールに従って処理しており妥当である。
	改善点：特になし。
【環境配慮】	評価：特段環境に影響を及ぼす事象は発生しておらず、妥当である。
	改善点：特になし
【安全管理】	評価：複数人で出動する体制をとっており、事故なく適切に実施しており、妥当である。
	改善点：特になし
3. その他の事項に関する評価及び改善点 特になし	
4. 全体評価	
冬季に集団化する越冬地において痕跡調査を実施し、その中で、痕跡が多い地区で捕獲事業を実施したが、令和7年度は県北を中心に豪雪となったため捕獲活動が困難だったほか、対象地区にシカが確認できず捕獲に結び付かない地区があり、目標頭数には達しなかった。 ニホンジカは県内全域で目撃情報があるが、依然として、越冬利用している地域は限られていると考えられるため、分布域拡大を抑制していくためには集団化する越冬地において捕獲強化を図っていくことが効果的、効率的である。引き続き、対象地を精査しながら事業を実施していくことが妥当である。	

■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

	モニタリング項目・方法
特定鳥獣保護・管理計画の目標	科学的かつ計画的な管理を実施することにより、群れとして安定的に生息することを防ぎ、農林業、生活環境、森林生態系への被害や影響を最小限に抑えることを目的とする。
寄与状況の評価	越冬地における痕跡密度により評価することとしているが、現状では、定着から増加の段階にあるものと考えられ、捕獲事業の実施により痕跡密度が低減した地区がある一方で、逆に増加している地域もある状況となっている。 絶対数が少ないため、本事業の寄与の判断は難しいものの、冬季に集団化する地域での捕獲が効率的であると考えられることから、引き続き、事業を実施しながらその効果を判断していく必要がある。